

(別紙様式3)

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

住所 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
管理機関名 高知県教育委員会
代表者名 高知県教育長 伊藤 博明

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和元年5月29日(契約締結日)～令和2年3月31日
- 2 指定校名類型
学校名 高知県立室戸高等学校
学校長名 藤田 勇人
類型 グローカル型
- 3 研究開発名 目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践
- 4 研究開発概要
ESDの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させる。
- 5 教育課程の特例の活用の有無
無
- 6 管理機関の取組・支援実績
 - (1) コンソーシアムについて
 - ① コンソーシアムの構成団体
高知県教育委員会事務局、室戸市、室戸ジオパーク推進協議会(ESD拠点センター)、室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
 - ② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月1日(月)	コンソーシアムを組織
平成31年4月16日(火) (第1回)	第1回会合 15:00～16:00 室戸ジオパーク推進協議会ESD活動拠点センター センター長 和田 康治 室戸市観光ジオパーク推進課チーフ 山岡 浩子 室戸ジオパーク推進協議会 地理専門員 中村 有吾 室戸高校 教頭 前田 康彦

	<ul style="list-style-type: none"> ・室戸高校におけるグローバル事業の年間活動について協議し、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市を中心に生徒の活動を支援することを決定 ・国際交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員の役割について確認
令和元年12月4日(水) (第2回)	第2回会合 13:30~14:20 室戸市長 植田 壯一郎 副市長 久保 寛人 室戸市教育長 百田 貴昌 教育次長 武井 知香 室戸高校 校長 藤田 勇人 教頭 前田 康彦 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの地域貢献活動、海外交流活動、室戸地域協働学習の実施状況の報告と内容確認
令和2年2月26日(水) (第3回)	第3回会合 16:00~17:00 室戸市職員、山岡 浩子 室戸ジオパーク推進協議会 ESD 活動拠点センター長 和田 康治 高知県教育委員会事務局 中越 啓介 室戸高校 校長 藤田 勇人 教頭 前田 康彦 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の総括と来年度の方向性の決定 ・次年度の生徒の活動成果発表の場の拡大について
令和2年3月13日(金) (第4回)	第4回会合 13:30~15:00 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 赤池慎吾(高知大学) 室戸高校 校長 藤田勇人 教頭 前田 康彦 室戸高校総合学科運営部 三谷 真美、尾知 桃子 室戸ジオ推進協議会 国際交流専門員 小笠原 翼 <ul style="list-style-type: none"> ・科目「産業社会と人間」を中心としたカリキュラム開発

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

海外交流アドバイザーは、室戸ユネスコ世界ジオパークに理解のある者で、海外の機関と連携交渉及び生徒交流の中心的な業務を担った。また幅広い視野で指導、助言をいただくため、2名体制で行った。

室戸市地域おこし協力隊 岩崎 由紀 氏

室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員 小笠原 翼 氏

※年間計画をもとに都度依頼し、謝金支払い 高校で勤務

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年6月~令和2年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ランカウイについて情報収集、生徒周知資料作成 ・海外交流アドバイザー便り作成 ・ポートリンカーン派遣研修会取材 ・笑って分かるSDGs企画 ・室戸高等学校のパンフレット翻訳支援 ・海外研修用英会話教材作成 ・ランカウイ事業に係る生徒指導用資料作成 ・海外交流代表生徒との勉強会 ・ランカウイジオパーク職員の室戸高校受け入れ準備 ・産業社会と人間、ジオパーク学のカリキュラム開発

(3) 地域協働学習実施支援員について

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員 小笠原 翼 氏

※年間計画をもとに都度依頼し、謝金支払い 高校で勤務

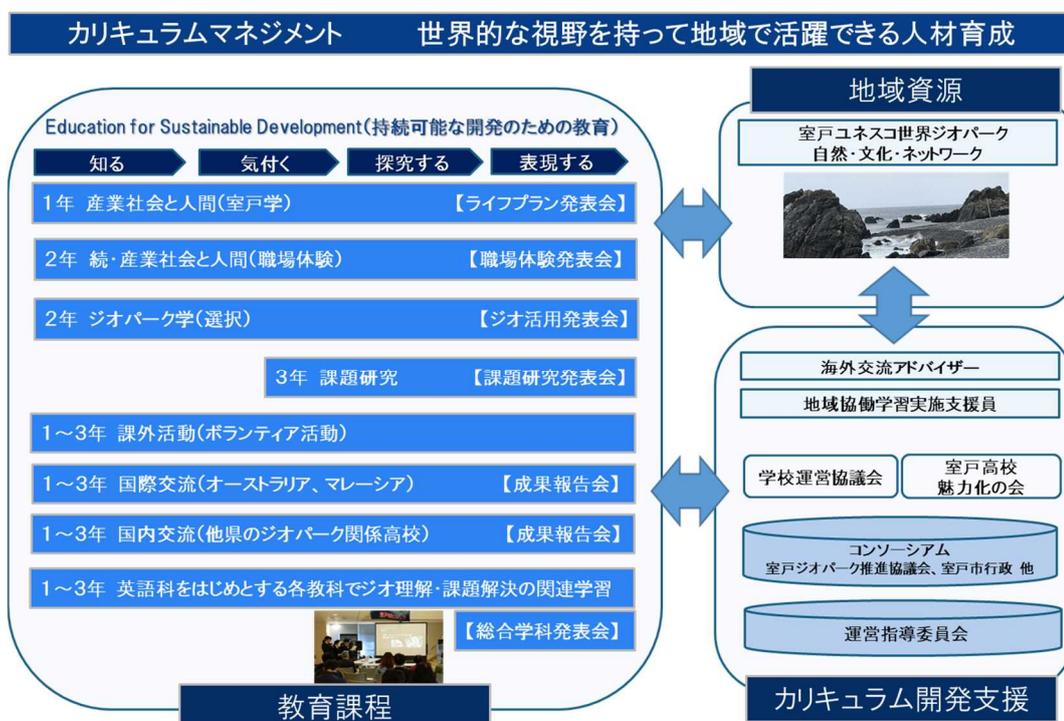
② 実施日程・実施内容

活動日程	内容
令和元年8月~令和2年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ジオパークネットワーク(JGN)全国大会 口頭発表申し込み(アブストラクト、プレゼンテーション準備)

・産業社会と人間		2回				4回	2回		1回	4回		1回
・続産業社会と人間				3回					1回			1回
・課題研究				1回					1回			1回
・総合学科発表会											1回	
・ジオパーク学	1回		1回			1回					1回	
○地域貢献活動	1回	2回	1回	2回		1回	6回	6回	2回	3回		
○室戸ジオパーク再認定活動				1回								
○国際交流												
・オーストラリアポートリンカーン交流	1回				1回							
・アジア太平洋ジオパークネットワーク会議						1回						
・ランカウイジオパーク視察								1回				
・ランカウイジオ職員室戸高校訪問									1回			
○国内学校間交流								1回	1回	1回		
○地域企画イベント研修会参加			1回						1回			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について



・E S D体制・プログラム開発

これまでの課題は、生徒が現状の課題を認識することだけにとどまってしまい、過去を振り返り、そして将来を展望し、人とのつながりを考え、地域課題を解決する力

を身に付けるために、生徒が地域の方々を巻き込んで活動することは十分とはいえなかった。

そこで、地域と学校が協働して地域課題を解決する探究的な活動の場を提供することで、生徒が主体的にテーマを設定し課題解決に積極的に取り組み、地域を支える人材を育成できると考えた。

そしてこのプログラム開発の主体であり、総合学科において特色ある科目である「産業社会と人間」「続・産業社会と人間」「課題研究」「ジオパーク学」の各科目では、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」「振り返る」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」こと、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」の豊富な素材、人材を活用すること、さらに海外交流活動を積極的に取り入れることでグローバルな視点を持って地域課題解決に取り組める人材の育成を目指した。

・地域貢献活動

外部に出て行くことに消極的な生徒を支援するため、生徒の地域貢献活動状況は、校内のネットワークを利用してすべての教職員で共有して校外活動を推奨した。また、組織的に取り組んだ結果、生徒だけでなく教員にも外部団体からボランティア、地域住民と合同で行うSDGs研修会など、活躍の場が拡大した。

この結果、室戸高等学校全体でグローバルな視点を持って自分たちが地域で貢献できることについて考える雰囲気が醸成され始めたことが大きな成果である。

・国際交流1

室戸ユネスコ世界ジオパークのユネスコ世界ジオパーク認定継続再審査にむけた活動

これまで室戸地域がユネスコ世界ジオパークとして認定されているが、4年に一度、再認定審査を受ける必要がある。令和元年6月29日(土)から7月3日(水)にかけて世界ジオパークネットワーク(GGN)の委員による現地審査が、室戸ユネスコ世界ジオパーク内で実施された。この審査は地質学的な遺産を保護し、研究に活用するとともに、自然と人間のかかわりを理解する場所として整備し教育の場とするほか、新たな観光資源として地域の振興に生かすことを目的としたユネスコ世界ジオパークとして認めることができるかどうかを判断するものである。

その審査の中で本校は、「ジオパークと教育」という分野を担い、室戸ユネスコ世界ジオパークに関係した学習や地域貢献活動について3年生代表生徒9名が英語で報告した。

さらに、これまでの活動をもとに各自の将来の夢についても語り、ジオパークに関係する活動経験が将来の夢につながっていることを審査員に十分伝えることができた。

なお、海外交流アドバイザーは、生徒の口頭発表指導を英語科教員と協働して行った。

再認定審査の結果、室戸ユネスコ世界ジオパークは、令和2年1月22日に再認定された。室戸高校のジオパーク学をはじめとする、地域と連携したジオパークを土台にした教育活動がうまくいっており、課外活動としても室戸ジオパークのジオラマを作成、商品開発、伝統文化への理解、防災活動など、包括的に取り組めると高い評価をいただいた。

日 時：令和元年7月1日(月)9:00~10:00

現地審査員：Martina Paskova*(チェコ共和国)、Helga Chulepin*
(ウルグアイ)*世界ユネスコジオパークカウンスル委員

場 所：室戸高校 2F第2会議室

発表題目：Muroto High School as a Bridge of Communities

- Our Contribution to Local Development-

(地域の架け橋としての室戸高校-地域発展への貢献-)

発表要旨：

室戸高校の特色の1つである総合学科が、ジオパークの理念（地域資源を生かした地域発展）をうまく活用し、生徒が地域課題を発見し活動するプロセスを以下の具体事例を交えて紹介した。

- ・産業社会と人間で学んだ室戸地域課題解決学習、職場体験、ジオパーク学での研究、ジオパーク清掃活動、地元の素材を生かした商品開発、課外活動（勇魚太鼓-地域文化の継承）、防災の取組

審査員講評：

総合学科が自由度の高いカリキュラムだからこそ実現できる、自らの問いに対して研究を進め課題解決できるプログラムが素晴らしい。生徒たちそれぞれがジオパークを理解し、将来の進路に対して積極的に活用している様子がわかった。防災への取組は特にすばらしく、特にHUGゲーム開発に関してはもっと積極的に発信していくべきである。ユネスコ世界ジオパークには「Good Practices」という事例紹介の仕組みがある。必ずそれに応募すべきだと思う。まさに室戸高校は「ジオスクール」と呼ぶことのできる取組である。

・国際交流2

本年度から国内外のジオパーク関係高校と交流を開始するが、人的ネットワークを構築する必要があった。個別訪問は予算的に難しいため、ジオパーク関係校の関係者が一同に集まる会議に参加するとともに協議の場を設定して、ジオパーク関係者とジオパークと高等学校の関係の現状の課題、今後の高校同士の交流計画とジオパーク推進協議会の支援体制について話し合い、室戸高校のジオパーク関連交流が決定した。

APGN（アジア太平洋地域ジオパークネットワーク）シンポジウム参加

滞在日時：令和元年9月1日～9月5日 インドネシア・ロンボク島

室戸高校関係参加者：海外交流アドバイザー 小笠原 翼

室戸高校教頭 前田 康彦 室戸ジオ専門員 中村 有吾

参加目的：

マレーシアランカウイユネスコ世界ジオパークとの交流プログラム等に関する協議

地域ジオパーク域内における高校と室戸高校の交流事業拡大のための協議

（島原半島、ランカウイ、糸魚川、香港、隠岐の担当者と協議）

成 果：

○室戸高校生徒がランカウイ関係高校を訪問すること、12月に2名のランカウイ政府職員が室戸ユネスコ世界ジオパークを訪問し、室戸高校の生徒と交流することが決定

○島原半島の長崎県立口加高等学校の学生と室戸高校との交流が決定

○糸魚川市内の高校と室戸高校の連携についての検討

※後に12月新潟県立糸魚川白嶺高等学校との交流決定

○令和2年4月13日頃から香港の高校生が室戸高校訪問

※新型コロナウイルス対応のため中止決定

・国際交流3

今年度から新たに、姉妹ジオパーク協定を結んでいるマレーシアのランカウイ島（ユネスコ世界ジオパーク認定地域）の高校生との交流を始め、マレーシアのランカウイ島の高校を生徒が訪問し、室戸の魅力を発表し、相互交流を行った。

帰国後、生徒は地元の経済発展と自然保護について考え、自分たちの意見をまとめ地域で発表した。また、英語学習の重要性も強く感じ、現在も学習意欲が向上している。

訪問①：令和元年11月12日（火）Langkawi MARA Junior Science College 校

この学校はマレーシアの政府機関である全寮制の学校である。マレーシア全土か

ら選抜された12歳から17歳までの学業に秀でた学生（理数分野）が通学しており、今回は15歳（3年生）の代表生徒が室戸高校生の訪問に対応してくれた。室戸高校生の発表タイトルは「Muroto High School: The Only High School in Muroto UGGp（室戸ユネスコ世界ジオパーク）」である。生徒は、室戸高校のカリキュラム、地域貢献活動、室戸 UGGp の概要などについて英語で発表を行った。

訪問②：令和元年11月14日（木）Sekolah Menengah Kebangsaan Ayer Hangat 校

この学校も生徒は12歳から17歳までである。生徒らは多くの生徒の前で主に室戸の文化の魅力について英語で発表を行った。

なお、これらの成果については、帰国後、室戸中学校、室戸高校魅力化の会、総合学科発表会で生徒が発表した。

○令和元年11月29日（金）11:00～12:00 室戸市立室戸中学校
学校紹介・海外交流活動報告 対象生徒室戸中学校全生徒104名

○令和元年12月23日（月）16:00～17:00 室戸市役所内
室戸高校魅力化の会

室戸市教育長、産業振興課長、学校保育課長、民間団体の代表等10名

○令和2年2月5日（水）13:30～15:50 室戸市保健福祉センターやすらぎ
総合学科発表会 室戸市内中学生、一般の方を含め209名

・国際交流4

室戸市と姉妹都市であるオーストラリアのポートリンカーン市の高校生同士が交流し、異文化理解や相互理解を深め、国際化時代に対応できる人材を育成する目的で、室戸市友好交流協会と連携し行っている行事である。特に夏休み期間中のオーストラリアホームステイは人気があり、参加したい生徒は多数いるが、人数制限があり、希望する生徒が全員参加できないのが残念である。

この交流を今後も続けていくために教員及び生徒は、ポートリンカーン市やこの交流事業の魅力について少しでも多くの生徒に広め、両市の交流について中学生や室戸市民の理解が深まるようにしたいと考えた。

○平成31年4月19日（金）10:00～17:00 室戸高校

歓迎式典・交流授業

本校生徒全員と、室戸市に2週間ホームステイしているポートリンカーン高校、ナビゲーターカレッジ、セントジョセフ校の生徒10名との授業交流

○令和元年8月16日（金）～8月29日（木）

ポートリンカーン市 ホームステイ

室戸市の中高校生9名（内室戸高校生4名）が友好交流のため、ポートリンカーン市でホームステイ

○令和元年9月20日（金）13:00～14:00 室戸市立室戸中学校

室戸高校生がホームステイの魅力紹介

対象生徒：室戸中学校全生徒104名

○令和元年11月10日（日）室戸市産業祭 ポートリンカーン市紹介コーナー

ポートリンカーン市の魅力を紹介

○令和元年11月29日（金）13:00～14:00 室戸市立佐喜浜中学校

室戸高校生がホームステイの魅力紹介

対象生徒：佐喜浜中学校全生徒23名

○令和元年12月12日（木）16:00～17:00 室戸高校

室戸高校校内発表会 室戸高校全生徒

○令和元年12月18日（水）16:00～17:00 室戸高校

室戸市友好交流協会役員（会長・元会長）2名と派遣生徒4名との懇談会

この活動をいかに持続発展させるか、英語学習機会の設定についての協議

・国内学校間交流

○11月3日(日)日本ジオパーク全国大会

日本国内には複数のジオパークがあり、それぞれの地域でジオパーク推進協議会を組織している。このネットワークを活用して日本ジオパークの大会に本校生徒が参加する機会を得た。

17:00～17:15 口頭発表 1年次生 橋本くるみ・北村鷹胡

「高校生が広げるジオパークネットワーク」

～室戸ユネスコ世界ジオパークと協働の防災保全活動と国際連携を事例に～

要旨

高知県立室戸高等学校は、室戸 UGGp 域内に唯一ある高校として地域連携や地域発展に取り組んでいる。ジオパーク専門員らとともに特に保全活動や国際連携についての分野で連携体制が強固であり、いくつかのプロジェクトが進んでいる。今回はそのプロジェクトを紹介するとともに、他地域ジオパークにおける高校との将来的な交流についても訴えたい。

18:00～19:00 生徒交流会

長崎県立口加高等学校、島根県立隠岐高等学校、京都府立峰山高等学校の生徒と本校生徒の交流会を行った。全国の色々な地域でジオパークに関わる学習をしていることがわかり、生徒の今後の学習に対する意欲向上に大きな影響があった。なお、この場には各県のジオパーク関係者も参加した。

○12月13日(金) 15:30～17:00

新潟県立糸魚川白嶺高等学校(指定事業アソシエイト校)を室戸高校生2名が訪問して室戸ジオパークの紹介と生徒の活動についてプレゼンテーションをした。糸魚川白峰高校の生徒は、ジオパークと防災について報告した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

・「産業社会と人間」1年次(2単位) 総括:総合学科運営部 担当:ホーム主任

※室戸学については、外部講師(企業等)、室戸ジオパーク専門員が担当

目標:職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要なコミュニケーション能力をつけるとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲を身につける。また、現実の産業社会やその中で自己のあり方・生き方について認識し、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を学習する。

	実施日	曜	学習内容	時間数
1	4 9	火	スタディサプリ適性診断実施	2
2	4 23	火	「産業社会と人間」についてのオリエンテーション①	2
3	5 7	火	室戸学①(ジオ)	2
4	5 14	火	室戸学②(炭玄)	2
5	5 21	火	スタディサプリ適性診断結果配付	1
6	5 28	火	科目選択説明および系列説明会	2
7	6 11	火	科目選択の実施(個人面談)①	2
8	6 18	火	科目選択の実施(個人面談)②・各教科ガイダンス	2
9	6 25	火	学校・企業訪問事前学習	2
	7 5	金	学校・企業訪問周知会	
10	7 8	月	学校・企業訪問	6
11	7 9	火	学校・企業訪問事後学習(お礼状作成①)	2
12	7 16	火	学校・企業訪問事後学習(お礼状作成②)/まとめ模造紙作成①	2

	7	25	木	三者面談（保護者）	3日間
13	9	3	火	先輩に聞く	2
14	9	10	火	室戸学③（室戸岬周辺）	2
15	9	17	火	室戸学④（振り返り）	2
16	9	24	火	まとめ模造紙作成②	2
17	10	1	火	まとめ模造紙作成③	2
18	10	8	火	ライフプラン作成①	2
19	10	29	火	ライフプラン作成②	2
20	11	5	火	ライフプラン作成③	2
21	11	12	火	スピーチアウトラインの作成/発表練習	2
22	11	19	火	ライフプラン発表（各ホーム単位）	2
23	11	26	火	ライフプラン学年発表会（1年次生全体）	2
24	12	10	火	清掃ボランティア活動（雨天時：調べ学習）	2
25	1	14	火	外部講師講演（JICA）	2
26	1	21	火	まとめ模造紙作成④（清掃ボランティア・JICA）	2
27	1	28	火	ライフプランパソコン入力①	2
28	2	4	火	ライフプランパソコン入力②/まとめ模造紙作成⑤	2
	2	5	水	第19回総合学科発表会（午後）	
29	2	18	火	室戸学⑤（地域産業：うみ路）	2
30	2	25	火	室戸学⑥（室戸学のまとめ）	2
31	3	3	火	年間のまとめ（続産について）、産社アンケート	2

「活動は地域貢献につながることを意識することが大事」ということを生徒に伝え、必ず振り返りの時間を入れている。また、従来は「知る」のみという目標設定であったが、室戸ジオパーク推進協議会の専門員の方々や地元企業の講演を振り返り、1年次生徒であっても課題解決の提案まで行わせることが生徒にとって効果的であると判断し、グループワークと発表を積極的に導入した。さらに、必ず振り返りと模造紙等でプレゼンテーションをさせた。なお、到達目標を明確にして学習内容が積み重なっていく実感を伴うようにした。

1 学期	「知る」 室戸の魅力やジオパークについて 意見を出し合う。	観光施設だけではなく、人口や学校など、生活環境も含めて、室戸について知っていることを出し合う。あるもの/ないもの/分からないものを洗い出し、客観的に室戸を認識する。
2 学期	「体感する」「考える」 ジオパーク資源の活用法について 考える。	体験を踏まえて感じたジオパークの魅力とは何か。その魅力を今、室戸市や市民はどのように発信しているか。自分ならどうするか。
3 学期	「考える」 自分の将来と室戸との関わりについて考える。 →「続・産業社会と人間」就業体験。 自分にできることは何かを考える。 →ジオ学 室戸ジオを活用したいことを形に。	1学期、2学期の学習を踏まえて、人や場所など室戸の魅力・資源は何か。どうやってそれらの資源を活用し、室戸を活性化していけばよいか。

評価 規 準	関心・意欲・態度	自ら室戸の魅力・課題について知ろうとしている。
	思考・判断・表現	地域の活性化について、複数の意見を参考にして自分の意見をまとめて、わかりやすく伝えることができる。
	技能	他人に分かりやすく自分の意見を表現できる。
	知識・理解	各テーマの基本的な知識を身に付けている。

- ・「続・産業社会と人間」2年次（1単位） 総括：総合学科運営部 担当：ホーム主任
 目標：1年次で実施した「産業社会と人間」の学習内容を継続し、自己の進路選択の再検討を行い、自己の将来像についてさらに具体化し、計画性のある生活をおくることができる態度・姿勢の育成を図る。また、3年次の「課題研究」に向けての主体的な学習態度の育成を図るとともに学び方やものの考え方を身に付ける。

回	項目	実施日		曜日	学習内容	時間	備考
1		4	11	木	オリエンテーション	1	年間計画説明
2	体験学習	4	18	木	進路学習① (職場体験希望調査) (進学・就職希望調査)	1	「進路の手引き」を使用
3		4	25	木	進路学習②	1	進学・就職希望に分かれて学習(ワークシート)
4		5	9	木	進路学習③	1	進学・就職希望に分かれて学習(ワークシート)
5		5	16	木	職業講話(働くことの意義)	1	社会人講師
6		5	23	木	リクルート講演(志望理由について)	1	社会人講師(志望理由書の書き方)【体験先発表】
7		5	30	木	職場体験事前学習①	1	職場体験の手引きの配付
8		6	13	木	職場体験事前学習②	1	履歴書の下書き
9		6	20	木	職場体験事前学習③	1	履歴書の清書、提出
10		6	27	木	職場体験事前学習④	1	体験先別に注意事項の確認
		7	8	月	職場体験周知会		事前最終確認・体験先挨拶
		7	9・10	火・木	職場体験学習	18	全員が必ず実施
11		7	18	木	職場体験事後学習	1	お礼状作成
		夏休み中			オープンキャンパス体		進学希望者
12	9	5	木	県外学校・企業訪問事前学習	1	自己分析、学校研究	
13	9	12	木	県外学校・企業訪問	7	県外の上級学校・企業訪問	
14	発表	9	19	木	職場体験・県外学校・企業訪問報告書、発表原稿作成①	1	報告書、発表原稿作成
15		10	3	木	職場体験・県外学校・企業訪問報告書、発表原稿作成②	1	報告書、発表原稿作成
16		10	10	木	職場体験等ホーム発表	1	ホーム発表
17		10	24	木	職場体験等ホーム発表	1	ホーム発表
18	課題研究	11	7	木	課題研究① ガイダンス	1	課題研究について説明
19		11	14	木	課題研究② 第1希望テーマ作成	1	個人テーマ設定、調べ学習
20		11	21	木	学年発表会	1	各ホーム代表による発表
21		12	12	木	修学旅行事前学習①	1	全体説明
22		12	19	木	課題研究② 第1希望テーマ作成	1	テーマ用紙記入、提出
23		1	9	木	修学旅行事前学習②	1	全体説明
24		1	16	木	修学旅行事前学習③	1	全体説明
25		1	30	木	修学旅行事後学習	1	振り返り
		2	5	水	第19回総合学科発表会		2年次代表生徒発表予定
26		2	6	木	課題研究④ テーマ確認	1	各教科によるテーマ内容の確認
27	2	13	木	課題研究⑤ 年間月別計画表作成	1	計画表作成	

28		2	20	木	課題研究⑥ 年間月別 計画表提出	1	計画表完成、提出
29		2	27	木	まとめ・テーマ確認	1	感想文、アンケート実施

職場体験学習は、すべて地元地域の企業において実施し、企業の方々の評価はおおむね好評であった。県外出身生徒については、まだ地元地域の産業に対する関心度は低いが、新たな発見もあったようである。また、科目の取組を理解していただいた室戸市の産業振興課の方が2年次生に対する市内企業見学を新たに企画し、学校と行政が協働して、地元製造企業職場体験を充実させることができた。このような生徒を支援する方が増えたこと、学年発表会で体験した地元産業の魅力を生徒全員が発表する機会を設定できたことは大きな成果である。

学年発表会は公開であったが、残念ながら外部の方々の参加者がなく、発表会のPRが今後の課題である。

- ・「課題研究」2年次（2単位）総括：総合学科運営部 担当：各教科担当
目標：総合的・発展的な課題を生徒自らが設定し、個人またはグループによる継続的な学習を通して、自発的・創造的な学習態度や問題解決能力を養う。

回数	実施日	曜日	指導内容	時間数	
1	4	10	水	「課題研究」についての全体オリエンテーション	1
				教科別ガイダンス	1
2	4	16	火	授業 6/19 までテーマ別研究	16
10	6	25	火	授業・中間報告書作成開始	2
11	7	9	火	授業・中間報告書入力 7/16 まで	4
13	9	3	火	中間発表会準備	2
14	9	10	火	中間発表会	8
15	9	17	火	授業 10/8 まで	4
19	10	29	火	プレゼンテーション講習会	1
				授業	1
20	11	5	火	授業・最終発表会資料作成① 11/12 まで	4
22	11	19	火	授業・最終発表会資料提出（厳守）	2
23	11	26	火	授業・最終報告書作成開始	2
	12	6	金	最終発表会周知会（2学期期末試験最終日）	
24	12	10	火	授業	2
25	12	16	月	最終発表会リハーサル（1～6限）	6
26	12	17	火	最終発表会（終日）	
27	1	14	火	授業・最終報告書提出（厳守）	2
28	1	21	火	第19回総合学科発表会周知会・係会	2
	2	3	月	第19回総合学科発表会校内リハーサル（午後）	
	2	4	火	第19回総合学科発表会会場リハーサル（午後）	
	2	5	水	第19回総合学科発表会（午後）	

地域振興にかかわるテーマを選択した生徒は、48%であった。生徒の興味関心のある分野は、幅広いが、自分たちが考えていることは、何につながるのかを考えさせたい。地域振興、課題解決につながるテーマを生徒が選択する割合を60%程度にしたい。

地域振興、地域貢献に係る教科と研究テーマ

地公	教育現場の課題	地公	地域医療の研究～室戸と世界～
地公	室戸の民俗～神道文化と仏教文化～	理科	身近な動物の調査研究
理科	室戸ジオパークの植物探究	英語	英語の調査研究
書道	絵てがみを送ろう	家庭・福祉	昔遊びを伝えよう
家庭・福祉	1日へアメイクアーティスト		
商業	マーケティングリサーチ	商業	室戸のCMづくり

・「ジオパーク学」（学校設定科目）2年次（2単位）選択

担当：理科、商業、地歴・公民科教員

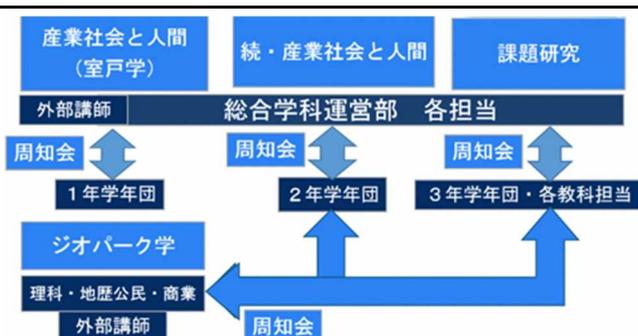
※各生徒個人に室戸ジオパーク推進協議会専門員3名が研究支援者として指導

目標：世界ジオパークや自然、歴史・文化遺産、地場産業について学び、その資源を最大限活用することによる地域の活性化についての方法を学ぶ。地域を調査・観察する力、資源の活用方法を企画する力、企画したものを社会に伝えるプレゼンテーションの力を取得できるようにする。

学	月	日	回	学 習 内 容		時
一 学 期	4	4/15(月)	1	オリエンテーション1	ジオパーク全般について	2
		4/22(月)	2	オリエンテーション2	ジオパークの意義や今後の活用法について	2
	5	5/13(月)	3	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
		5/20(月)	4	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
	6	6/3(月)	5	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
		6/10(月)	6	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
		6/24(月)	7	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
	7	7/1(月)	8	ジオパーク活用事前学習	ジオパークを活かした取組例を学ぶ	2
二 学 期	9	9/9(月)	9	テーマ別ジオパーク活用	1学期の振り返り ・ テーマ設定	2
	10	10/7(月)	10	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動	2
		10/21(月)	11	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動	2
		10/28(月)	12	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動	2
	11	11/11(月)	13	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動 計画の見直し・プラン作成 ・ 現地調査1)	2
		11/18(月)	14	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動 計画の見直し・プラン作成 ・ 現地調査2)	2
		11/25(月)	15	テーマ別ジオパーク活用	現地調査のまとめ・ジオパーク学中間報告発表会	2
	12	12/9(月)	16	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動 現地調査・プラン実践	2
		12/16(月)	17	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動 現地調査・プラン実践に向けての取組	2
		12/23(月)	18	テーマ別ジオパーク活用	グループ活動 現地調査・プラン実践に向けての取組	2
三 学 期	1	1/20(月)	19	テーマ別ジオパーク活用	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		1/27(月)	20	なし		
	2	2/3(月)	21	テーマ別ジオパーク活用		
		2/10(月)	22	ジオパーク活用の発表	室戸ジオパークセンター	2
		2/17(月)	23	ジオパーク活用事後学習	プラン作成から実践までの振り返り・1年間の学習内容の振り返り	2

評価規準	関心・意欲・態度	室戸の自然や歴史・文化等に対して関心や探究心をもち、科学的態度を身に付け、意欲的に探究しようとするとともに、地域の活性化や環境保全に関わろうとしている。
	思考・判断・表現	室戸地域に係る課題を見出し、ジオパークの活動を通して地域の活性化や環境保全について考察し、導き出す過程や考えを適切に表現している。
	技能	室戸地域に係る調査や観察または資料から得た情報を収集・選択して読み取ったり、図表や作品などにまとめたり技能を身に付けている。
	知識・理解	室戸の自然や歴史・文化等地域に関する基礎的・基本的な原理や事柄を理解し、知識を身に付けている。

課題は、研究調査だけで終わってしまい課題解決に到達しない生徒がいるため、生徒の自発的な活動を促すことである。そこで、総括として室戸高校「ジオパークの活用」発表会を年度末に実施している。昨年度の受講生徒がシロウリガイ（室戸半島の隆起に関係）の保全活動について引き続き研究を継続し、保全の重要性を行政に訴えるため、室戸市の天然記念物として室戸市に申請した結果、承認された。さらに、この研究成果の発表は、これまで室戸市内だけであったが、令和元年5月26日（日）に東京で開催された、日本地球惑星科学連合2019年大会でも発表し、室戸の魅力を全国に広めた。室戸ジオパーク推進協議会の専門員の方々の協力により、生徒の行動力も高めることにつながった好事例であった。



③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

科目	職名		国際交流	運営委員会	総文弁論等	産社	続・産社	課題研究	ジオ学	生徒会・家ク	広報	就職・進学	防災	道徳	備考
	校長	藤田 勇人	○	○	○						○				総括
	教頭	前田 康彦	○	○	○						○	○	○	○	教職員支援
国語	教諭	穂積 洋子										○			
	教諭	田中 裕生				○						○	○		防災担当代表
地歴	教諭	川渕 祐介						○				○		○	道徳・主権者教育
	期講	丁野 晃輔							○		○	○			
数学	教諭	松村 健吾						○				○			
	教諭	安宅 和輝									○				情報担当
理科	教諭	平川 雅人										○			
	教諭	岸野 信典	○	○				○	○	○					教務部長・吹奏楽
	期講	安藝 侑佑								○					生徒会主担当
英語	教諭	中村 秀彦	○	○				○							進路部長
	教諭	尾知 桃子	○			○	○	○				○			海外交流
	教諭	和田 晴菜	○										○		
保健体育	教諭	横田 尊								○			○		女子野球監督
	教諭	本田 貴久								○	○				ボランティア
芸術	教諭	清遠 瑞	○	○	○			○							人権主任
	教諭	三谷 真美	○	○	○	○	○	○							総合運営部長
	期講	氏次 礼									○				音楽部

家庭 福祉	教諭	山崎 直美	○	○						○	○				1年学年主任
	教諭	盛田奈々代	○					○		○					家庭クラブ
	教諭	中島 侑一	○	○				○							生徒指導主事
商業	教諭	柴原 享一		○					○						3年学年主任
	教諭	久保 尚	○					○							2年学年主任
工業	教諭	有藤 太亮				○	○	○						○	
養護	養諭	花井 櫻子								○					学校保健委員会
総合	実助	公文 理江				○	○	○			○				
支援団体、企業、人材		室戸ジオパーク推進協議会・海外交流アドバイザー・定時制教諭 室戸高校魅力化の会・室戸市学校運営協議会他 室戸市・安芸桜ヶ丘高校 ジオパーク推進協議会・観光ガイドの会・卒業生・JICA・企業 室戸市内各企業 戸市役所、他 むろと保育園、各老人ホーム、室戸市役所、他 キラメッセ室戸、山本かまぼこ各種団体 ジオパーク推進協議会、室戸市役所、観光ガイドガイドの会 PTA・室戸市・その他 ・県教委 就職アドバイザー、ハローワーク 県教育委員会・室戸市防災対策課 ・室戸ジオパーク推進協議会 県教育委員会													

それぞれ役割があるが、既存の組織でも、グローバル、地域課題解決という視点で見ると各教科、分掌、役割等相互に関係している。各教科の内容が課題研究のテーマ決定にも大きな影響を与えるし、相互に情報交換しながら、事業を進めることが効果的である。

例えば、ジオパークと防災というテーマはたいへん密接に関係しており、防災学習は理科、地歴・公民科、生徒会防災活動、県教育委員会の被災地訪問企画、海外での防災活動の紹介のための英語指導等が協調しなければならず、相互に関係した学校の教育活動であった。

その結果、意欲的な1年生は防災活動にたいへん興味関心を持っており、自発的に行動を継続している。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

主に進学クラスであるが、英語教育の中に、地域の問題を取り込んだ英語教材を開発し、海外交流や英語での発表に生かすことができた。

また本校定時制の教員とも連携し、教材開発を行っている。

⑤成果の普及方法・実績について

科目

- ・「産業社会と人間」 ライフプラン発表会
令和元年11月26日（火）13:30～15:00 室戸高校
- ・「続・産業社会と人間」 職場体験発表会
令和元年11月21日（木）13:30～15:00 室戸高校
- ・「課題研究」 課題研究発表会
令和元年12月17日（火）9:00～15:00 室戸高校
- ・「ジオパーク学」 室戸高校「ジオパークの活用」発表会
令和2年2月17日（月）13:45～16:00 室戸ジオパークセンター

国際交流

- ・室戸高校生のホームステイの魅力紹介
令和元年9月20日（金）13:00～14:00 室戸市立室戸中学生全員
- ・ポートリンカーン市の魅力紹介コーナー設置
令和元年11月10日（日）室戸市産業祭
- ・ポートリンカーン市ホームステイ報告
令和元年11月29日（金）13:00～14:00 室戸市立佐喜浜中学校
- ・学校紹介・海外交流活動報告
令和元年11月29日（金）11:00～12:00 室戸市立室戸中学校
- ・室戸高校魅力化の会 ジオパーク国際交流
令和元年12月23日（月）16:00～17:00 室戸市役所内

総括

- ・総合学科発表会
令和2年2月5日（水）13:30～15:50 室戸市保健福祉センターやすらぎ
室戸市内中学生、一般の方を含め209名

地域貢献活動等の広報

- ・生徒の活動について、室戸市の広報に毎月掲載

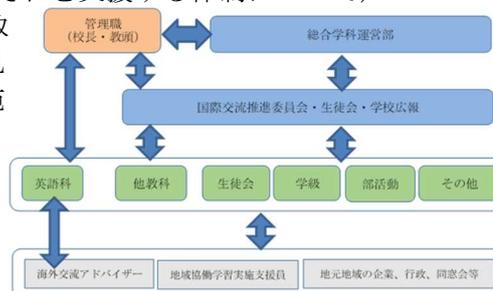
(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・コンソーシアムが中心となり、専門的な見地から学校にアドバイスいただき、運営指導委員会が検証した。
- ・校内においては、教頭を中心に総合学科運営部員、ジオパーク学担当者、英語科が主となり、外部講師と連携し、PDC Aサイクルを確立した。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

校内推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会を見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成した。また活動の広報のため、校内では広報部を組織した。



③学校長の指揮の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画方法を改善していく仕組みについて

- ・学校オリジナルアンケート（生徒）年3回
- ・学校評価保護者アンケート 年1回
- ・高校魅力化評価システム実施 年1回
- ・ボランティア参加状況調査 随時

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・室戸ユネスコ世界ジオパークに関わる大学教授、ジオパーク専門指導員からのアドバイス

8 目標の進捗状況、成果、評価

※（ ）内は令和3年度の到達目標、◎達成 ○ほぼ達成 △未達成

△文理総合系列において、英検準2級以上取得、もしくはそれと同等の実力があると教員等が認めた生徒の割合27%（50%）※3年次生だけに特化すれば、約50%で達成

◎高等学校卒業後の地元就職率33%（20%）※公務員や地域貢献に関わりたい生徒が増加

○3年間で地域貢献に参画し、達成感を持った生徒の割合85%（100%）

地域貢献に参加した生徒の割合は100%だが、達成感が持てない生徒が15%程度存在

△「課題研究」（3年次生）で地域課題解決につなげるテーマの割合48%（60%）

生徒に自由にかつ自発的に目標を設定させ、数値を上げたい。

アイデアは良いが、実践まで到達しない生徒がいる。

○日本の他地域のユネスコ世界ジオパークとの交流4回（5回）

令和元年6月29日（土）地域みらい留学フェスタ（教員同士の交流）

鳥取県立岩見高等学校

令和元年11月3日（日）日本ジオパーク全国大会 高校生交流会 長崎県立口加高等学校

校、島根県立隠岐高等学校、京都府立峰山高等学校

令和元年12月13日（金）糸魚川白嶺高等学校訪問 生徒交流会

令和2年1月28日（火）長崎県立口加高等学校 発表会に遠隔システムによる参加

△室戸高等学校への入学者数34名（45名）

事業を通して、地域貢献に関わりたいと考える生徒が増加し、学習に対する意欲が上昇し

ている生徒が増えてきたが、地元中学の生徒や保護者へのPRには工夫が必要である。

◎室戸高等学校が関わる地域イベント数25件（20件）

ほぼ全ての地域の依頼に応えている。

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 英語学習について

進路目標がある者となない者との間で英語学習意欲の差が生じている。大学進学を目指す生徒は検定試験受験や校外活動への参加にも積極的で、意欲的に学んでいる。学習に対する目的意識を高めるために、全ての生徒が、今の授業等での学びが社会で役立つことに気が付くような指導方法を研究し、さらに充実させる。

また、単に海外交流企画し、英語の学力を高めるのであれば、他の学校と変わりはない。やはり、ジオパークを活用した海外交流とその成果の発表を充実させ、生徒に達成感を持たせたい。内容は地域振興、地域課題解決に絞り込み、生徒の学びを通して地域振興につなげる活動にしなければならない。

(2) 地域貢献活動について

活動の前には、その意義や到達目標を生徒に示したい。また、市民は高校生の活動の成果を知りたいと感じているため、新たに校内組織として、外部広報チームを結成した。海外交流も市民とともに協働して行うことができることが目標である。最終年度は室戸地域に国内外の高校生が集合し、ジオパークを生かした地域貢献について発表会を行い、高校生の学びが地域を活性化できるようにしたい。

(3) 「課題研究」について

地域貢献活動に関するテーマを強制して設定させるのではなく、主体的に地域課題解決に取り組ませたい。また、評価については評価規準を明確に作成する必要がある。

(4) 「産業社会と人間」の評価

評価のし易さ、明快さを考えると現段階では不十分であり、次年度も、評価方法について検討する必要がある。

(5) 入学生徒数増

学校の地域貢献活動に対する地域の評価は高いが、実際に入学者が増加しない。地元中学生やその保護者に加えて、中学校の教員に対する広報活動も重要と感じる。

【担当者】

担当課	高等学校振興課	T E L	088-821-4542
氏 名	中越 啓介	F A X	088-821-4547
職 名	指導主事	e-mail	keisuke_nakagoshi@ken4.pref.kochi.lg.jp